

✈️ 海外生活 だより

パリ事務所

フランスのご近所づきあい事情

— La fête des voisinsからひも解く
フランス版「地域の絆づくり」 —

(財)自治体国際化協会パリ事務所所長補佐
堀部 貴子 (岐阜県派遣)

はじめに

日本を離れた外国生活では、不安がつきものですが、最も重要な生活基盤の一つが、「住環境」ではないでしょうか。

私は、今年4月からクレアパリ事務所に派遣となり、パリの基礎知識がほとんどない中、アパート探しを始めました。安全で、便利で、清潔で……と条件を挙げはじめるとキリがありませんが、自分では選べない重要な要素の一つが「ご近所さん」であることは日本と同様です。

2年間という限られた期間の中で、多くのフランス人と交流をしたいのですが、みだりに隣人のプライバシーに立ち入らないのが都市の原則でもあります。そんな中、私の興味を引いたのが、「La fête des voisins」(日本では「隣人祭り」と訳されます)。今年6月、このイベントに参加しましたので、その様子と事業の全体概要をご紹介します。

ご近所さん、いらっしやい! 「La fête des voisins」とは

「La fête des voisins」とは、都市部における住民の孤立化を解消し、コミュニティーの絆の強化を目的として1999年にパリで始まった活動(地域行事)で、例年5月の最終金曜日にフランス全土で開催されます。パリ市17区に事務所を構える「Association Immeubles en fête(隣人祭り協会)」(注1)が活動をサポートしており、今やヨーロッパをはじめ世界35か国に広まっています。日本でも、首都圏を中心に各地で開催実績があります。(注2) 2013年5月、フランスでは944の自治体や低所得者向け賃貸住宅整備管理会社がこのイベントに協力し、700万人以上の市民が参加しました。

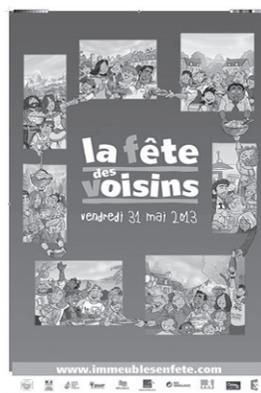
行事の内容は、いたってシンプル。地域住民が、飲み物やおつまみなどを持ち寄って、公園や広場、アパートや街角に集まっておしゃべりをし、住民同士の交流を図るイベントです。日本の「お花見」に近い雰囲気、アパートや集落ごとに開催される「計画的な井戸端会議」と言えるかもしれません。



Association Immeubles en fêteのホームページ

私の町の「La fête」、天候不順で開催延期?

今年5月、私も、初めての「La fête des voisins」を楽しみに待っていたのですが、5月末になっても開催されず、「今年は開催されないのか……」とあきらめかけていた矢先、6月上旬に突如、開催を告知するチラシがアパートに貼り出されました。



ホームページから無料でダウンロードできるチラシ

今春のフランスは天候不順で、5月になっても冬用コートが必要な寒い日が続いていたため、6月に変更となったのかもしれませんが。

このイベントは、すべての地域・集合住宅で実施されるわけではなく、パリ事務所職員のアパートでは、開催されなかったところもありました。

開催案内には、「6月14日(金)夜7時からアパートの中庭にて開催。一品持参してください」とあり、何を持っていくべきか、まず悩むところです。

パリでは、驚くほど和食レストランが人気ですので、私も和食、といっても簡単な「プチおにぎり(カ

ツオとシソの2種類)」を作ることになりました。開催日は、朝、出勤前に米5合の準備をし、終業後は急いで帰宅して、おにぎりを握って、きれいに盛り付けて持参しました。

私の町の「La fête」参加体験

当日はそれぞれ都合の良い時間に集合します。私は夜8時くらいに到着しましたが、ちょうど宴もたけなわ、25人程度の住民がワインを片手に談笑しているところでした。発起人であるアパートの管理人さんをはじめ、熟年のご夫婦、共働きの若いご夫婦、普段は遊べない中庭で元気に走り回る子どもたち（幼児から中学生まで）など多くの人が参加していました。

テーブルや食器類は管理人さんが準備してくれており、住人が持参したワイン各種、ソフトドリンク、スナック菓子などのおつまみ、キッシュやタルト、果物が所狭しと並んでいました。そこに、私が持ち込んだおにぎりの大皿も加えられました。おにぎりがフランス人の舌に合うか心配しましたが、一人が手を付けるとあっという間になくなり、一安心です。手作りは確かに喜ばれますが、おつまみなどを買って参加する人も多く、持参するものにこだわる必要はありません。おしゃべりを楽しむために、気楽に参加するという雰囲気です。



フランス人住人同 La fête des voisins の様子

士では楽しいおしゃべりも、私にとっては一大事です。フランス語初級者で、知り合いは管理人さん一人のみ。かなり緊張しましたが、手作りおにぎりのおかげで会話の糸口もでき、どんどん勧められるワインの力も借りて、フランス語と英語で、いろいろな方とお話ことができました。入居から1か月半、ちゃんとあいさつをする機会がなかったお隣りの2家族とも話をし、家族構成やお子さんの名前もわかったので、その後も自然に交流ができるようになりました。

このように、フランスでの「La fête des voisins」は、地域住民が誰でも気軽に楽しめるイベントであり、都市部でのコミュニティーの緩やかな「連帯」感を感じさせるものでした。

「La fête des voisins」なぜフランスで盛ん?

フランスの「La fête des voisins」、市民の認知度や参加度が非常に高いのには、いくつか理由があるように感じられます。

①国、地方自治体、企業等のサポート

この活動には、国（フランス上院、地域間平等・住宅省）、地方自治体（全仏市町村長会）、国営テレビ局（FRANCE 3）などが、パートナーとしてPRを行うなどのサポートをしています。これは、高齢化・核家族化が進むフランスの、特に都市部における社会的弱者の孤立化防止（注3）のため、コミュニティーの連帯を図ることが公的使命であるとの認識の表れと言えます。また、銀行、不動産会社、食品関連などの企業協賛も受け付けています。

②「Association Immeubles en fête（隣人祭り協会）」の存在

同協会のホームページでは、活動を非常にわかりやすく紹介しており、イベントに興味がある人、参加を希望する人にとって、信頼できる情報源となっています。

③シンプルな企画で手間がかからない

イベント開催には、大掛かりな準備が不要です。協会ホームページ上に、運営方法、成功の秘訣、告知チラシのサンプルが無償で提供されており、企画・運営にかかるコストを最小限に抑えられます。

④社会的ニーズの高さ、敷居の低さ

隣人同士、気軽に楽しくテーブルを囲み、お互いを知ることで、不要な隣人トラブルを避けられるというのは、住民にとっても、一石二鳥。参加者が多いのも納得できます。

おわりに

このように、公共性と市民のニーズがうまく合致したフランスの「La fête des voisins」。私も来年は、ご近所さんと緊張せず楽しく会話できるよう、クレアパリ事務所での業務やフランスでの生活を通して、フランスへの理解と語学力を一層高めたいと考えています。

（注1）Association Immeubles en fête URL <http://www.immeublesenfete.com/>

（注2）「隣人祭り」日本支部URL <http://www.rinjinmatsuri.jp/>

（注3）フランスでは2003年8月の猛暑で約1万5,000人が死亡し、都市部における社会的弱者対策の遅れが浮き彫りとなった。